

許

五年 11
筆順 言許許
オン キヨ
クン ゆるす

成り立ち



「杵(もちつぎのきね)」の形を表した「午(今は呉音でゴと読む)」と、「言」とを組み合わせて作った字です。「もちつきで、杵をふりおろす時の「かけ声」を表した字です。それは杵をふりおろす合図でもありますが、「杵をふりおろしてもよい」と「ゆるす」意味にもなりますので、今は「ゆるす」という意味に使われています。

〔午(2年125)は、十二支の七番目として「うま」を表す字として用いられたため、昼の十二時(正午)を表す字として用いられるようになり、「きね」は「杵」になったものである。〕

境

五年 14
筆順 土培境境
オン キヨウ・ケイ
クン さかい

成り立ち



「音」と「土(人)」とで「人が音楽を演奏し終わること」を表した「境」と、「土」とを組み合わせて作った字です。

「土地が終わるところ」という意味の字で、「土地の「さかい」」を表したものです。〔例〕国境、境界、お宮の境内。「境界の内側」の意味で、単に「場所」の意味にも使われます。〔例〕佳境、境遇、辺境、環境。また、「状態(ありさま)」の意味にも使われます。〔例〕心境、苦境、順境、逆境。

使い方

▽ぼくのおにいさんは、運転免許証を持っていました。免許がおりるまでには、散々苦勞したようですが、路上試験にパスした時は、本当に嬉しそうでした。
▽わたしのおじいちゃんは、町の発明家です。色々な工夫をして、便利な物を考え出します。今度の発明で特許を取りました、おじいちゃんは、とても頭が良いと思います。

熟語例

▽免許(①役所があることを許すこと。「運転免許証」などが、その例です。②師匠が弟子に奥義をさずけると。「免許皆伝の腕前」などと、つかいます。)
▽特許(特別に許すこと。とくに、発明など、独自の工夫をした人に、独占権を許すことを言います。)
▽許可(何か願い出たことを、そうして良いと許すこと。「日曜日在校庭で野球をしたい」と願ひ出て、許可された)などというふうには、つかいません。)
▽許容(許して受け入れること。「今度のいたずらは許容範囲を越えているから、ひとつ、厳しく叱らなければならぬ」などというふうには、つかいます。)

使い方

▽日本は四方を海に囲まれた島国ですから、国境はありません。しかし、ほとんどの国々には、国境があります。国境を越えると、そこはもう外国です。周囲を国境で囲まれている国に住んでいる人の気持ちは、どんな風でしょうね。
▽人は環境によって良くなれば悪くもなると言われています。だから、友だちなども、自分よりすぐれた良い友だちを選びたいものです。

熟語例

▽国境(国と国との境)
▽境界(土地の境)
▽境内(境の内側、という意味から、お寺や神社の敷地のなか、という意味になりました。)
▽境遇(良い所、という意味の言葉で、景色の良い所とか、話の中の良いところという意味につかいます。「話が佳境に入る」などと、つかいます。)
▽境遇(その人がおかれている身の上。「不幸な境遇に同情して、涙を流した」などと、つかいます。)
▽辺境(中央から遠く離れた場所)